

氏 名：馬場 香里

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：甲第145号

学位授与年月日：2016年9月20日

学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当

論文審査委員：主査 堀内 成子（聖路加国際大学教授）

副査 片岡 弥恵子（聖路加国際大学教授）

副査 麻原 きよみ（聖路加国際大学教授）

副査 北村 俊則（北村メンタルヘルス研究所所長）

論文題目：構造方程式モデリングを用いた乳児虐待と家族内の要因の因果構造の探索

博士論文審査結果

審査の過程で指摘された事項は、

予備研究においては児童虐待の範囲を扱っているが、本研究では乳児虐待に焦点を当てているため、予備研究のまとめにおいて虐待の中でも特に乳児虐待の特徴について言及するほうが望ましい。

概念分析、予備研究をへて研究計画に至っているが、本研究の枠組み表現において唐突な概念表記が現れてきた印象がある。特にパートナー間の関係性の「嫌悪」について、親しい間柄の暴力経験(IPV) 尺度で測定できるという考えに至ったプロセスの記述を示してほしい。家族看護モデルとの関係性も子ども、夫婦、家族を単位としてとらえる視点で一貫するよう再考・修正が求められる。

本研究の結果において、養育者の属性、怒り・健康・睡眠障害、パートナー間の関係性を示す成人愛着スタイル、親しい間柄の暴力経験、ボンディング障害、乳児虐待等の実態全体を概観した記述があると、対象集団への理解が容易になる。

仮説 A の結果の記述で、1 か月後のボンディング障害は、3 か月後の乳児虐待につながる可能性が父親にも母親にも認められたことから、「構造が異なるという仮説」を支持していないとの誤解を招く。多母集団分析による記述を加筆することが望ましい。

考察において、産後ケア事業、乳児虐待のスクリーニングとしての問診、地域母子保健活動の取り組み、医療機関と地域との連携を加筆して記述することが望ましい。本集団の特性として、年収が比較的高い 800 万円以上なのでこの対象集団の限界としても述べたほうが良い。

親しい間柄の暴力経験(IPV)の実態に対して、男性側の実態を示すデータは少ない。本研究では、夫婦の得点が示されている点で非常に貴重であり、考察で男性の(IPV)結果から考えられるケアの改善、出産後早期からのケア対象者として母親のみならず夫や家族システムを動かすための新たなケアを提示したほうが、より発展的になる。

本研究者は、大学院修士課程より、児童虐待の尺度開発に携わってきており、その後、概念分析、予備研究での関連要因の探索と選定と段階を追って本研究に至っている。在学中においては、

国際学術雑誌へ2論文が筆頭著者として採用されている。

対象集団として出産後1週間以内、1ヶ月、3か月と長期にわたって縦断的に家族システム内の要因の関連性を探索したこれまでに認められない研究であり、研究者の粘り強い探索の賜物である。分析においては、共分散構造方程式モデルを作成する統計的分析能力を短期間に修得し、説明力の大きい結果を得ることができ、ひとえに粘り強く分析を重ねた成果だと思われる。

本研究で得られた知見は、乳児虐待のスクリーニングを妊娠中から開始できる可能性、1か月時点での愛着障害が3か月時点での乳児虐待を予測できる点、夫および妻の親密な間柄における暴力的関係が深く関与しているという知見は、臨床現場での経験に新たな視点をもたらす画期的な成果である。これらの知見をもとに乳児虐待を予防するうえでの、医療機関、地域母子保健、助産師、保健師、精神科医、産科医等の他職種連携の可能性が大きく広がった。

以上のことから、本研究者は、博士後期課程の修了者としての能力を持ち合わせている。本研究者は、十分な能力を有している。